

試聴会・訪問記掲載

シマムセンオーディオ試聴会 (2017.9.23)  
 —ESOTERIC 新製品 E-02/N-01 試聴会—

1. はじめに

シマムセンで開催された ESOTERIC 新製品 E-02/N-01 試聴会に行ってきました。

2. 使用機器



日時	2017年9月23日(土) 15:00~17:00	
場所	CYMA (シマムセン別館) 2F	
講師	Esoteric 担当者	
内容	ネットワークプレーヤーとフォノイコライザーという対極的な Esoteric 新製品の實力をご確認ください。	
機器	ネットワークプレーヤー	Esoteric N-01
	フォノイコライザー	Esoteric E-02
	プリアンプ	Esoteric C-02X
	パワーアンプ	Esoteric S-02
レコードプレーヤー	Luxman PD-171A	
	NAS	DELA HA-N1ZS20

上記の他、カートリッジが Van den Hul の VDH-FROG とオーディオテクニカの

AT-ART1000 が使用され、NAS には DELA の他、fidata HFAS1-S10 が、またクロックジェネレーターには ESOTERIC の G01X が使用されました。

これらのハイエンド機器を駆使しつつ、ネットワークプレーヤーとフォノイコライザーという対極的な機器で、しかも新製品同士の聴き比べという趣旨の試聴会です。



当日のセッティング

### 3. N-01 の試聴の経過

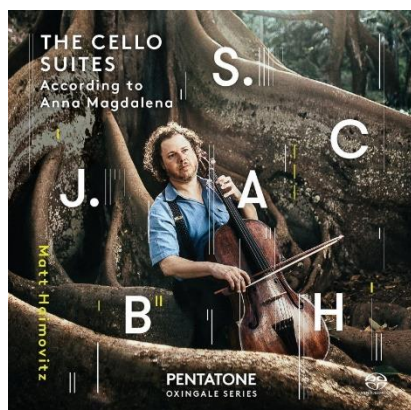
試聴を挟みながら N-01 の開発意図や、下位機種 N-05 を先行させた理由、K01 との関係やその他詳しい仕様の説明がありましたが、下記サイトにその記載がありますので参照願います。また、解説者からは、USB オーディオよりネットワークの優位性について述べられました。

<http://www.esoteric.jp/products/esoteric/n01/>

最初に 2.8MHzDSD と 5.6MHzDSD の両音源の聴き比べとそれらの再生における外部クロック入力の効果の確認ということで、ミサ曲がかかりましたが、2.8MHzDSD と 5.6MHzDSD ではやはり後者が響きの豊かさに加えて焦点があってくる印象です。さらに G01X から 10MHz 正弦波のクロックを入れると、響きの豊かさが増し、3次元の音場感が向上し、こうなると 2.8MHzDSD と 5.6MHzDSD の差が縮まってきます。さらにアコースティックギターのデュオがかかりましたが、アコースティックの質感が自然な印象でした。

次に ESOTERIC 保有の fidata と店に展示の DELA の聴き比べということで、fidata で日本の女性ボーカル、DELA で外人の女性ボーカルがかかりましたが、音源が違いますので、厳密な評価のしようがないのですが、繊細な表現の fidata、厚みのある濃い音の DELA ということで好みとしては前者ということになります。ともに SSD を積んでおり、価格は DELA が倍程度あるのですが、音質面では敢えて DELA を採ることはなかろうと感じました。この後、96KHz24 ビットのビッグバンド、パッハ

のチェロ組曲、オルガン曲と続きましたが、ビッグバンドの厚みのある音は理解できたものの、チェロ組曲はマット・ハイモヴィッツのちょっと違和感すら覚える独特な演奏スタイルで、デモ受けを狙った選曲のように感じました。



#### 4. E-02 の試聴の経過

ここからはアナログの試聴ということで Van den Hul の VDH-FROG を装着しての試聴から始まりました。

耳慣らしにサイモンとガーファンクルの盤をかけたあと、マンハッタンジャズ Q で、アクセサリによる静電気除去やカートリッジの消磁効果を確認することになりました。SK-EX-II による盤の処理は、音が滑らかになる印象があり、E-02 の消磁による処理は音に張りが出てくる印象です。

盤を水上の音楽に替えて、アームからの引き出しケーブルを、プレイヤーの付属ケーブル→Van den Hul の銀コートアンバランスケーブル→Van den Hul のバランスケーブルという順で聴いていきましたが、この順に音が緻密になり、弦の質感が向上しました。

E-02 は、負荷インピーダンスを選択できるので、100 オームから 300 オームに替える実験を行いました。元気は良いが、音が荒くなる傾向がありました。

さらに E-02 の電源ケーブルを ESOTERIC の電源ケーブルに替えましたが、押し出しがよくなった反面、カンタベリーGR の個性が強くなりすぎるきらいがありました。この後、ポップスのコーラスものがかかりましたが、こういう音楽には向いている印象です。

ここでカートリッジを ART-1000 に替え、同じコーラスものがかかりましたが、細かい声の綾や反応が速くなるものの、味わいみたいなものが後退する印象です。次に Kensington を使用した [上新電機での E-02 の試聴会](#) でもかかったデイヴィス指揮ロンドンのベルリオーズのレクイエムがかかりましたが、上新電機での Van den Hul のカートリッジの方がオーケストラや合唱の厚みみたいなものが良く出ていたように感じました。最後にジャズで締めくくりとなりましたが、切れ味の良い音がしていまし

た。

同席された M 氏とアナログ試聴の経過について意見交換しましたが、バランスケーブルの効果、Van den Hul とオーディオテクニカのカートリッジの比較、インピーダンスの負荷の選択など、すべて意見が一致しました。

## 5. まとめ

ハイエンド機器を駆使しつつ、ネットワークプレーヤーとフォノイコライザーという対極的な機器の新製品同士の聴き比べという趣旨は活かされていたように感じます。また、クロック入力やケーブル交換、NAS やカートリッジの比較、フォーマットの比較、消磁や静電気除去など多彩プログラムでデモ機器の特徴を炙り出そうという努力がなされました。しかしながら、高額製品であるだけに期待感が先行し、選曲面で少しそういった期待感に沿えることが難しかった面もあります。また、使用されたカンタベリーの特徴が強くてすぎて、かえって下位機種 **Kensington** を使用した [上新電機での E-02 の試聴会](#)の方が、バランスよく反応が的確に出ていた印象もありました。

以上

### 【註】

試聴会が終わってから、N-01 の UBS ポートからの再生が可能ということについて持参したサムソンの SSD を繋いでみましたが、先に訪れたテクニクスの試聴室の SC-C70 と同様、認識されませんでした。

また、解説者に USB 接続と LAN 接続の比較に関しては、経験上 NAS と DAC を USB 接続の方が LAN 経由より良い結果をもたらすことがあることを述べておきました。なお、使用された専用アプリの **Sound Stream** というアプリは、あくまで **ESOTERIC** のネットワークプレーヤーのための専用アプリで、NAS と N-01 などの DAC 部を USB 接続する場合の再生には使えないということでした。

以上